

# へうげもの

## Hyouge Mono 16

YOSHIHIRO YAMADA  
Oribe Furuta Soutatsu Tawaraya  
Samon Oda Koudaiin Ieyasu Tokugawa

2179

HYOUGEMONO SINCE 2005  
MORNING KC  
KODANSHA

MORNING  
KC  
2179



へうげもの Hyouge Mono 16 山田芳裕 YOSHIHIRO YAMADA

講談社



9784063871791



1929979005528

雑誌 42673-79

ISBN978-4-06-387179-1

C9979 ¥552E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体552円(税別)

Furuta Oribe/ 時 Samurai đã đánh mất tinh thần vì trà đạo và sự tham muốn.  
Thế giới tuyệt vời từ thiên tài Nobunaga,  
Học theo tinh thần sâu sắc từ Sen no Rikyu và thần trà  
Đã chạy suốt theo con đường đến với Hyouge-mono  
Ieyasu đã chiếm được thiên hạ, mặc phủ Edo được bắt đầu.  
Để chiến thắng được Tokugawa, những con người bất hạnh chỉ còn cách là kéo dài mạng sống.  
Hãy xem các đề án tuyệt vời của Oribe.  
Sống hay chết, anh dũng hay bất hạnh đó là một vấn đề thời sự.

茶の湯と物欲に魂を奪われた戦国武将・古田織部。  
天才・信長から壮大な世界性を、  
茶聖・千利休から深遠な精神性を学び、  
「へうげもの」への道をひた走る。  
家康が天下を握り、江戸幕府ができちゃった。  
四角い徳川の世をまあるく治めるには、  
数奇者がしたたかに生き延びるしかない。  
フィクサー織部が放つ奇策をご覧ください。  
生か死か、武か数奇か、それが問題にて候!!



Oribe  
Furuta



Soutatsu  
Tawaraya



Samon  
Oda

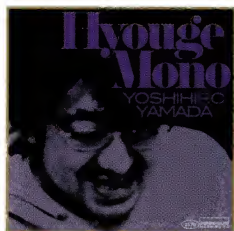


Koudaiin



Ieyasu  
Tokugawa





この時代の茶人は長生きな方ばかりで、  
 抹茶を飲む効能を信じざるを得やせん  
 おそらく秘訣はそれだけでなく、  
 移動のときは常に歩いたり、  
 二輪車に乗るが如く  
 馬で風を切るなどという生活手段も  
 あつての事なのでしょう  
 両方あつて初めて強い体ができる気がしやす  
 お茶は飲めどもブーツを重く感じたり  
 バイクに埃をかぶらせておる私は、  
 反省する事しきりにございやす  
 山田芳裕



TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

## HYOUGEMONO 16

- 第百六十五席 アイ・ラヴ・ユー、OF
- 第百六十六席 パラダイス京都
- 第百六十七席 Samurai, Pottery & Violence
- 第百六十八席 feels So-AN good
- 第百六十九席 TOUGH BOYS
- 第百七十席 North windy lady
- 第百七十一席 KIMIGAYO
- 第百七十二席 卒業 [feat. YUKI-S]
- 第百七十三席 SEA SIDE BOUND (Go bound)
- 第百七十四席 I still love O
- 第百七十五席 失恋餐館



cover design  
 シマダヒデアキ (Local Support Department)





山田芳裕  
YOSHIHIRO YAMADA

講談社

1604年、**かぶき****者へうげ**  
たわらやそうたつ  
ばっこばっこ

**俵屋宗達**登場、TEAMかぶき者**跋扈跋扈**。  
戦なき時代の「黒幕」は**古田織部**にて候。

コラボCD第2弾は極乙mix

Kei Kobayashi × へうげもの = 数奇國/V.A.

ポニーキャニオンより3月6日(水)発売。定価1980円(税込)也



へうげモノ16  
モーニング KC 2179  
387179-1





Oribe Furuta  
Soutatsu Tawaraya  
Samon Oda  
Koudaiin  
Ieyasu Tokugawa



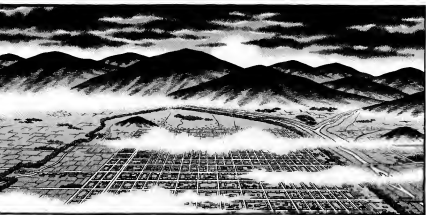
TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

KODANSHA

# Hyouge Mono

Furuta Oribe/ thời Samurai đã đánh mất tinh thần vì trà  
Thế giới tuyệt vời từ thiên tài Nobunaga,  
Hoc theo tinh thần sâu sắc từ Sen no Rikyu và thần trà  
Đã chạy suốt theo con đường đến với Hyouge-mono  
Ieyasu đã chiếm được thiên hạ, mặc phủ Edo được bắt đầu  
Để chiến thắng được Tokugawa, những con người bất hủ  
Hãy xem các đề án tuyệt vời của Oribe.  
Sống hay chết, anh dũng hay bất hạnh đó là một vấn đề







1604年4月  
京・三條通<sup>どおり</sup> 瀬戸屋  
(京都市中京区)

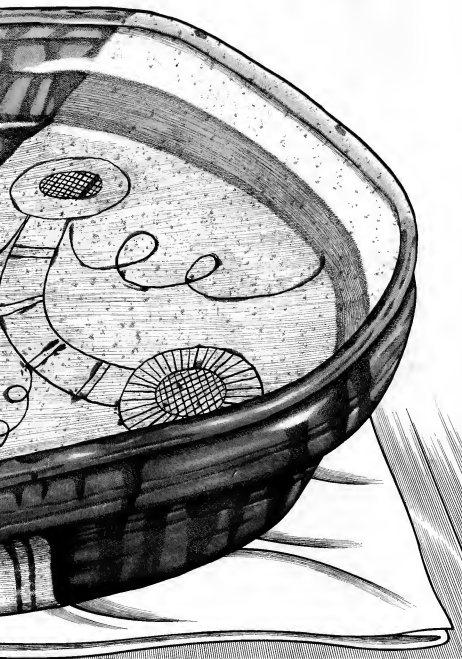


第百六十五席

アイラブ・ユー、OF













「子<sup>こ</sup>が日向<sup>ひなた</sup>ぼっこ  
しておるような  
この絵付けも……」

「実に能<sup>う</sup>天気で  
微笑<sup>えいご</sup>ましい!!」

ああ……

「己<sup>おの</sup>自身で手に  
した報酬<sup>ほうご</sup>で  
ようやく……」

「ようやく  
「織<sup>オリ</sup>部<sup>部</sup>好<sup>ミ</sup>み」の  
緑<sup>キナンド</sup>糸<sup>イト</sup>器<sup>キ</sup>を我<sup>われ</sup>が物<sup>モノ</sup>に  
……!!」





私が瀬戸物で  
銭を出せるのは  
総黒茶碗まで……

若い者にはわびた  
佇まいはわからん  
でしょうがな



それが流行りの  
器ですかいな  
……

よおまあ  
そないなモンに  
百貫文も出さはり  
ますなあ



瀬戸屋はんも  
柱を縁に塗るなぞ  
派手にならばつて  
……

私らのような  
真の数奇者には  
淋しい限り……

まったく……  
わびのかけらも  
あらしまへん……



店に戻ったら  
すぐに柱を塗り替え  
るんやっ

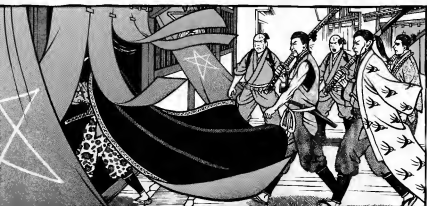
苦むした  
屋根も  
葺き替えるで



それでは  
私らはこれで















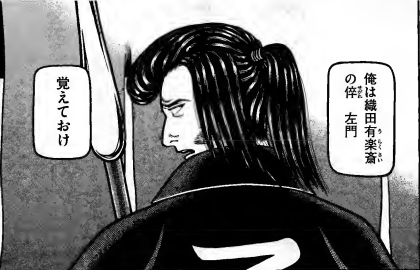




※お経を写してある絵巻









あの者らが  
やっておるのは  
伊達政宗の真似事  
……

この「織部好み」の  
器が放つ良さとは  
何かが違う……

逢いたい  
……

織部助様に  
……

逢って伺いたい  
事が山ほどある  
……

京・小川  
（京都市上京区）  
俵屋

また買った  
のかっ



まったく  
お前は……

おれはたか  
齢二十を過ぎて  
も店の仕事も  
せず……

かようなわけの  
わからぬ物ばかり  
買いおつて……



あれとて光悦殿が  
声を掛けねば  
やったかどうか……

ともかくこれからは  
扇の絵付けを  
みっちりやつて  
もらうぞ



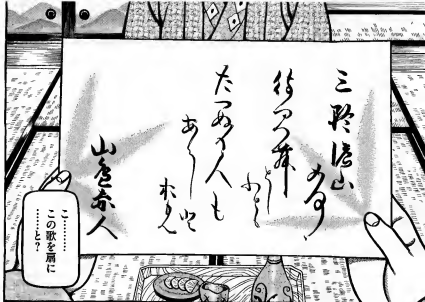
仕事なら  
納経の補修に  
出向きましたよ

お父上より貰う  
小遣いには  
もう頼りません



後で光悦殿が  
扇を眺めに来る

しかと  
お相手して  
さし上げろ



古織様の字の如く  
もそつと乙に崩し  
たいのだが……

まだ……  
逢えませぬか  
……？





瀬戸屋さんには  
多忙にて来訪されぬ  
と言われ……

光悦殿には  
「お日を見て」と  
二年も待たされ……

もう……  
辛抱できませぬ



おとなしい若旦那が  
そこまで申すは  
余程の事よのつ

プ  
ッ  
ク  
ッ  
ク

おとなしきは  
人前が苦手な  
だけで……



ただのう……

古織様は今や  
茶頭筆頭を超えた  
天下第一の名人よ……

されど……

近々に逢える機が  
無きにしもあらず  
……



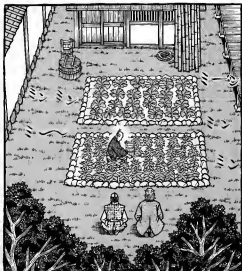
幕閣の方々や  
諸大名方にも  
引っぱりだこゆえ  
……

八月に  
太閤殿下の  
七回忌がある

徳川様共々  
豊国神社での催しを  
観に参られるやも



1604年8月 伏見・  
徳川家康居城 伏見城  
(京都市伏見区)





私は行かぬ

左様に奉行へ  
伝えよ

第百六十六席

パラダイス京都

されど太閤殿下の  
七回忌に 御願を  
見せぬはちと……

臨時祭は  
あくまで  
空気抜きよ

徳川幕府への不満を  
爆発させぬためのな

私が参れば  
盛り上がるものも  
盛り上がりながらのう  
なる

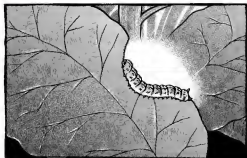
かしこまり  
ました

江戸の方は  
如何ぞ  
アダムス

大久保長安様<sup>おおくぼながやす</sup>が  
街道を整え  
流通も芳しく……

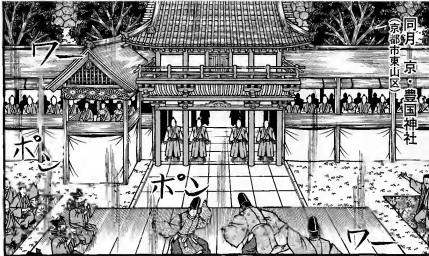
江戸城改築の  
縄張りも進んで  
ござマス

後で上様に  
私の築城案を  
御覧ござマス













やはり  
描きに来たか  
又兵衛

久しぶりやの  
光悦はん

わしかて  
食うていかな  
あかんでの



キ  
ロ



依屋の若旦那  
宗達殿だ

お主と齡も  
近いかの



今は狩野内膳殿  
の下に……？

これも  
内膳はんの  
お抱え仕事や



あ  
あ  
の……

織部助様の屋敷に  
襷絵を描いたとか  
……

お噂は  
かねがね  
……



若旦那の描く物に限っては……

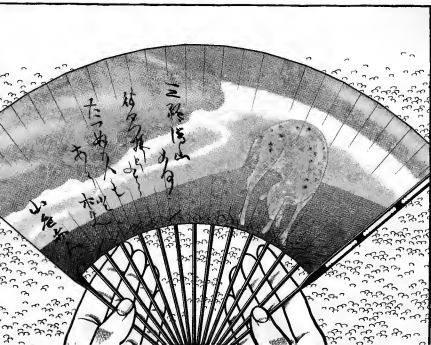
そうでも  
申しあげぬぞ



俵屋の扇絵は  
好かん

わしもやまと絵は  
習うたが……

あれは古典を  
なぞつとる  
だけやろ







まだまだやの

この程度じゃあ  
織部はんにはケチつけ  
られるでえ



これは  
『平家納経』の  
写しだが……

金泥銀泥の用い方が  
豪胆でいささか  
古典を逸しておる  
……

私はそこを気に  
入り 若旦那に  
頼んでおるのだ



織部はんも  
おるかも  
しれん

北野天満宮まで  
行ってみようか  
……?

へ!!?



ワー



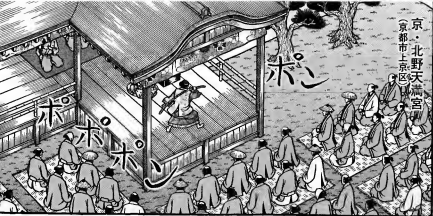
こっちの騒ぎより  
あっちの方が  
たぶんおもしろい

絵を描くなら  
おもしろい方を  
写さんとな

ザッ

ザッ

京・北野天満宮  
(京都市上京区)



待ちやがれ  
茶屋の主人ア!!













見せてもらったら  
あんたの姿を……

ちょっと中を  
見せてほしい  
だけや

もっと乙に  
描くさかいに



ここから  
覗くだけや  
ぞっ



なんと  
……  
!!!





ま……  
間……違……い……ない……



あれは慶長の  
光源氏といわれる  
猪熊教利様!!



御公家様たち  
が……

かように  
淫らな……



どや……

おもしろい  
やろ……



宮中一の文人  
鳥丸光広様まで

宮仕事で御尊顔を  
拝見した事がある  
……!!



人間 公家や  
武家やゆうても  
……

やる事は  
犬や猫と  
変わらん……



わしはその辺も  
含めて 一切合切  
描いたる

古典の如く  
雅なだけや  
のうて……

醜いもんまで  
描いて初めて  
真の乙な絵やで!



おいおいの

おいおいや



左様な物を世に出せば 幕府が黙っておらぬぞ！

それは合戦図を描いてわかつとるがな



又兵衛の申す絵は確かに「乙」かもしれぬ……

されど反骨に過ぎる……

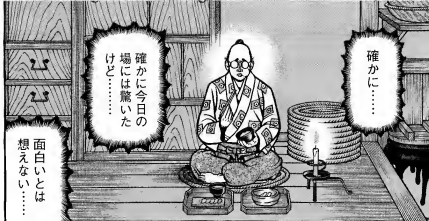


戦乱が収まった  
は良いが……

何か反骨の氣運が  
高まつとるのう……







確かに……

確かに今日の  
場には驚いた  
けど……

面白いとは  
想えない……



ひょうげ……

そこはかとうの  
しみ出る  
素っ頓狂な  
おかしみだ



私は反骨なぞ  
どうでもいい  
……

それよりも  
この器が語って  
おるのは……



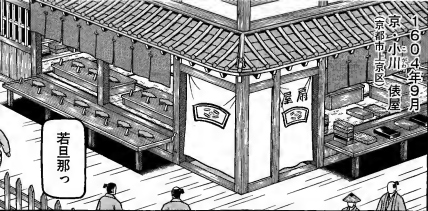
早う  
逢いたい……

一体 織部助様の  
本意はいずこに  
……



第百六十六席 終

1604年9月  
京・小川・俵屋  
(京都市上京区)



若旦那っ



絵師に会わせると  
申す客が店頭に  
.....

何やら若旦那の  
扇絵が 気に入らぬ  
らしく.....



あ.....  
会いませんよ

帰して  
下さい



それが.....

会うまで  
退かぬと.....



第百六十七席

Samurai, Pottery & Violence





ハゲ山の宗屋  
という者よっ



まあ待て

冷やかしなら  
どうか  
お引き取りを

あの  
お客様……



その場での  
間を……

いや「魔」を  
ビシュッと……



茶席に招かれ  
……

亭主は心を尽く  
してもてなして  
くれるのだが……

どうもかしこ  
まるばかりで  
和まぬ時がある





シャシユツと  
ブツた斬ってくれん  
扇が欲しいのだ

聞いた扇絵を見た  
亭主が 思わず  
ニヤつく程の物  
がな



この爺……

爺に似合わず  
かぶき者か  
……



どうせもつと  
情欲丸出しの  
ギラついた物を  
欲してくるぞ……

そこでだ



残念ながら  
俵屋の扇で  
それは叶わぬ

『伊勢物語』や  
三十六歌仙では  
教養自慢にしか  
ならぬでのう



その方が最も  
わびておると  
思う絵を描いて  
くれぬか



今  
この場で



料紙を用意  
致します  
若旦那

お代は高う  
つきますよ  
お客様

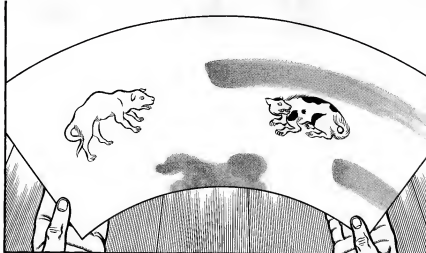


わびた絵  
とは……

牧谿の模写  
ならしていた  
が……

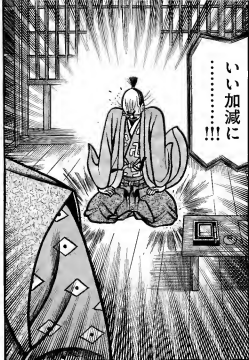
ま……たかが  
成金の爺には  
適当に……







その鼻息ぞ



いい加減に  
.....  
!!!



その必死さを  
以て わびを  
さらに崩し.....

ついには一笑を  
誘う物こそ  
欲しいのだ



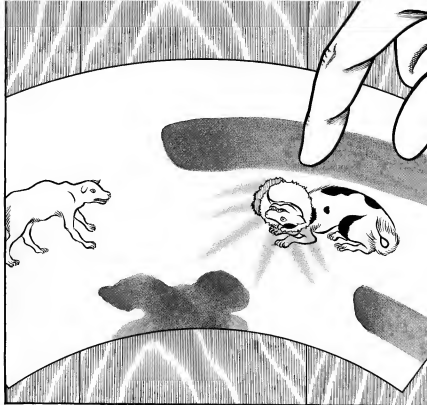
ひょうげて  
和を成す物  
がな



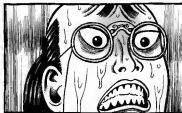
かぶいて威嚇  
するでなく

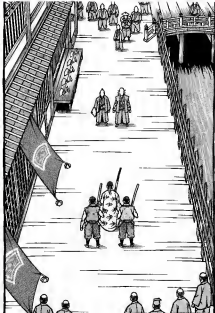
ヒッ  
ヒッ



















くさ  
臭おが  
あああ!!!



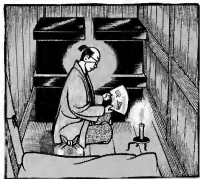
馬鹿者が!!!

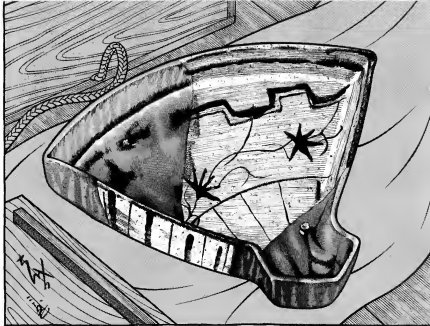
私が日夜蕪粥を  
食み 臓腑を  
鍛えておるを  
わからんのか!!!







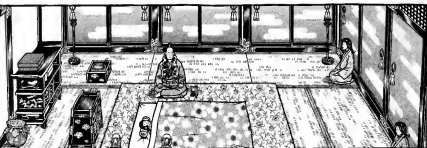
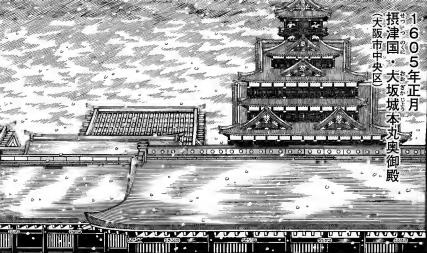




1605年正月

摂津国・大坂城本丸奥御殿

(大阪市中央区)







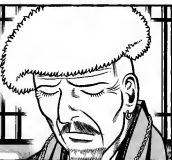
余が將軍  
家康じゃ

第百六十八席

feels So-AN good









家康から三万石余も  
加増され 秀頼の  
側近に置かれたは  
……

やはりわらわ達の  
動きを探るため  
かえ………？



ずいぶん徳川の  
肩を持つほう  
有楽斎殿



いずれ左様な  
命が出される  
やも

このまま  
家康公との面会を  
拒み続けるなら



ここで割れて  
如何する……

今や小勢の我らが  
一丸とならねば  
織田家も危うい……





何としても  
豊臣が冠の下に  
織田を再興させ……

徳川を頂より  
引きずり落として  
ゆかねば……!!



信用できぬ者  
を排すも大事  
……



この大坂では  
わらわが法ぞ

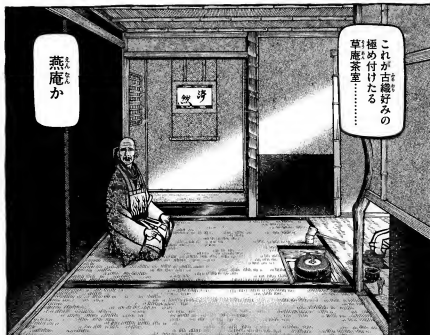
今後は有楽斎殿の  
出入りを制限させ  
て頂く



同年2月  
伏見「新うぎやあ」  
（京都市伏見区）

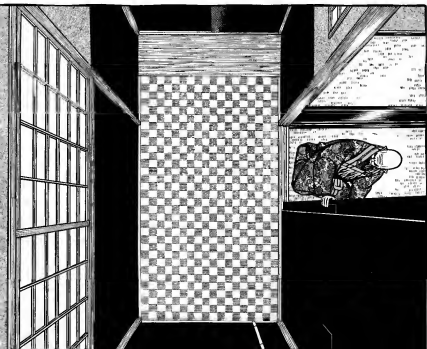


ほう……



燕庵か

これが古織好みの  
極め付けたる  
草庵茶室……





畳が格子柄に  
.....

いかなる事  
ぞ.....!?



さらに一歩進め  
畳に柄を付け  
申した

武人なら 畳の  
波の如く整然と  
座りなされ.....と



客が多い時には  
どうしても身分に  
格差が生ず.....

特に武人の場合  
格下の者と同じ畳に  
座るを拒む者もおる  
.....



その小茄子は  
.....

銘を「蕨」と  
付けてござる



碁盤にて相伴席を  
設け 一応の解決を  
みたが.....

石田三成よりの  
贈り物だとは  
口外せぬよう

もそつと早う  
これが欲しかった

確かに面子を  
捨てきれぬ客には  
都合良い……

カラッ

我が茶室にも  
用いさせて  
もらう

その石田だが  
……

斬首される直前に  
放った言葉を  
聞いておるか？

「干し柿は痰の毒と  
申し、役人を笑わせた  
由……」

あの男が最期には  
数奇を解しておった  
事を窺わせん……

言葉の裏まで  
案じよ

その干し柿  
とは……



美濃<sup>みの</sup>産の  
お前の事では  
ないのか？



何気のう徳川に  
喰われたお前が  
……

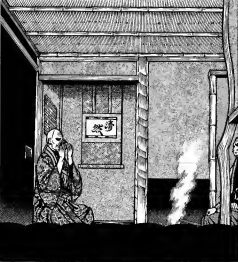
ゆくゆくは  
毒となり  
体制を蝕み……

ついには滅すと  
石田は予見し  
……

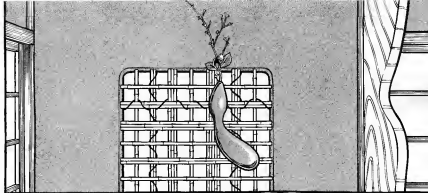


役人にはわからぬ  
徳川への皮肉を  
公に申す事で

お前に実行を  
促したのでは  
ないのか？









双方あってこそ  
互いが引き立つ  
のでござる

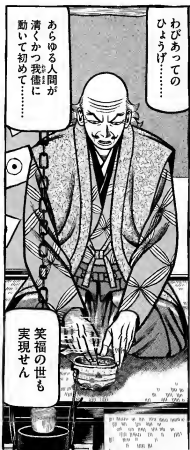
甲あつての乙  
.....

必死さあつての  
一笑.....



能書きはよい

何を企んでおる  
.....?



わびあつての  
ひょうげ.....

あらゆる人間が  
清くかつ我儘に  
動いて初めて.....

笑福の世も  
実現せん

豊徳合体  
ほうとく

豊臣と徳川の  
いもぎ こんりゅう  
一座建立に  
残り少なき生を  
賭すつもりにて









今一つ……

貴殿の次男坊殿も  
何とかしてもらい  
ませぬとなあ……

我儘のみの  
醜き所が如実に  
出ておる



左門の事は  
お前のせいぞ



幼き頃よりお前の  
数奇にはまり  
あの様よ

言い掛かりも  
甚だしい!!



俺がよう叱った  
長男長孝の方は  
……

美濃は野村で  
立派に領主を  
務めておる

だが  
左門の方は  
どうだ……



さすれば俺も  
子育てから離れ  
……

スホッ

お前が  
清くせい

豊徳合体に  
動しめるわ



正室との子は  
左門殿の方に  
ござろう！

あのまま家督を  
譲って良いのか  
!?



笑福の  
世造りも  
大変よのう

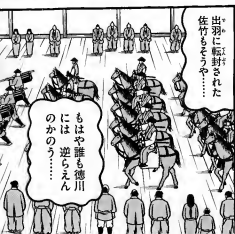
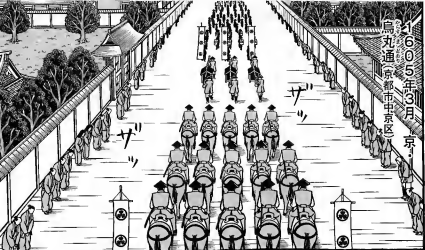


お前が利休居士  
の如くならねば  
良いがな





1605年3月 京  
烏丸通(京都市中京区)

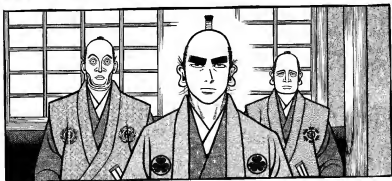




第百六十九席

TOUGH BOYS

同年4月 伏見・  
新「うぎやあ」(京都市伏見区)



恐悦至極に  
存じまする

わざわざ  
我が屋敷へ  
御足労頂き……



どうぞ  
秀忠様



今後はさらに  
広げ……

これまで貴殿に  
徳川が数奇を任せ  
てきたが……

御成などの  
儀礼のあり方も  
頼みたい



承知の通り  
……

私は来月  
帝より將軍位を  
賜る



大名によって  
異なる  
もてなしの差を



仰せのまま  
に

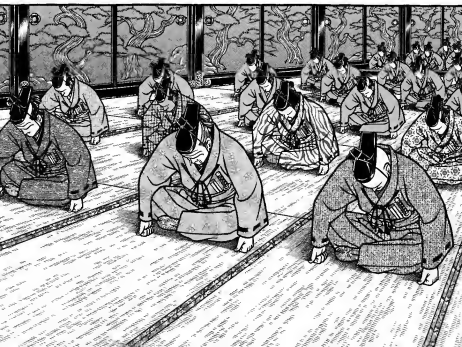
して……

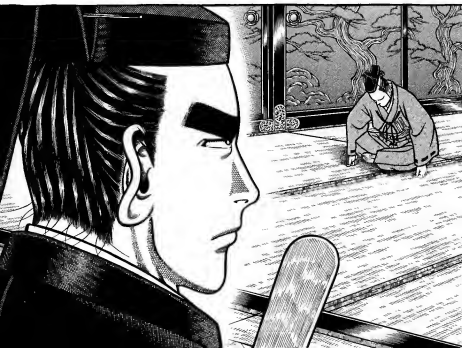
一つ御伺い  
致しまする

徳川のやり方  
で統一せん



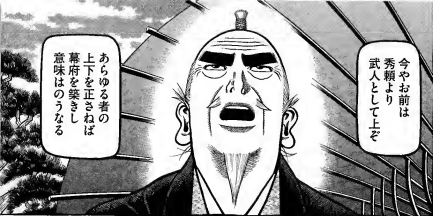
同年5月  
伏見城本丸（京都市伏見区）













病み上がりの千姫を  
放って上洛するなど

義理の父たる  
秀忠公に  
申し訳なからう？



わざわざ遠路  
すまぬのう  
忠輝殿……

されど秀頼公は  
大坂を出られぬ  
のじゃ……

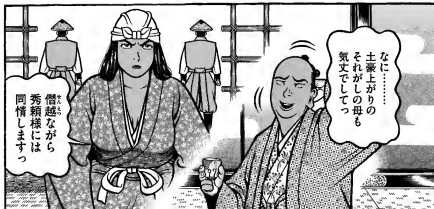


な……!!



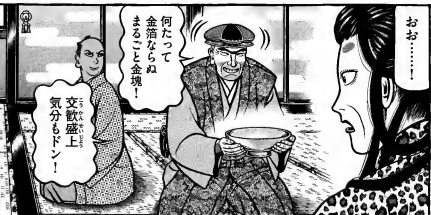
承知しま  
した

母君のきつき  
お達しで  
秀頼様は助けぬと



なに……  
土豪上りの  
それがしの母も  
気文でしてっ

僧越ながら  
秀頼様には  
同情しますっ





以後お見知り  
おきを

忠輝様の家老から  
鉢山奉行まで務める  
大久保長安と申します



今やかような  
賢が懐かしいのう  
.....

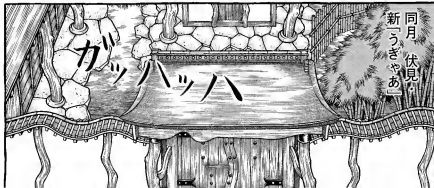
あのケチな徳川に  
その方の如き者が  
おるとは.....



胡散臭い  
男だことっ

ホッホッホ

ウツツツ



同月 伏見  
新「うぎやあ」

ガッハッハ



有楽斎殿の次男坊  
が左様なバカ息子  
に育ったとは！

やはり遊び人の  
血は争えません  
のう高山殿っ



それで子は立派に  
育ってござるか？

……そう  
申し切れぬが  
つらい所です



それは我が古田の  
血も混じっておる  
ゆえっ

ま……数奇と  
子育ての両立は  
悩み所ですな



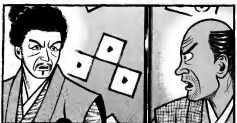
有楽斎殿は信仰心が  
足らぬのですよ  
忠興殿

私などは前田様の  
援助で北陸に  
幾つもの教会を建て  
……

日々に  
感謝や懺悔を  
怠りません







確かに徳川が  
これ程増長するとは  
思わなんだ……

いずれ豊臣は  
邪魔になり  
潰されかねぬ……

バレぬように  
やるのでござる

貴殿らとて  
乱世を生き抜きし  
強か者にござろう

されど企てが  
徳川にバレたら  
……

豊徳合体  
心得申した

この浅野幸長も  
豊臣には並々ならぬ  
恩義があるゆえ

上田殿は  
如何か……？

蜂須賀殿の客将から  
幸長殿の家老となり  
……

主の意向には  
逆らえぬと思うが  
……







その点この  
伊賀焼は良いぞ

領主の筒井殿は  
我が好みを熟知  
しておる



これらを造っておるは  
渡来陶工ゆえ 技自慢  
に過ぎるのだ……

もそつと指導者が  
「ひょうげ」を知って  
くれぬとう……



おお……!!

これは  
……!!!





1605年6月 伏見・  
伊達政宗下屋敷(京都市伏見区)



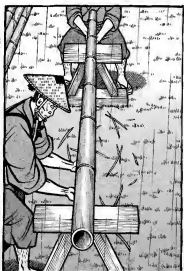
また憂き晴らし  
の音が……

殿は今日も  
ご機嫌悪そうだ  
……

京の者には「牙を  
抜かれた伊達男」  
と株の下がる  
一方ゆえ……



三本だ







第一百七十席

North windy lady





織部助から  
聞いたぜエ

お前の情夫だった  
那古屋山三郎が  
死んだとよオ



.....え  
!!!?



.....  
おくにイ



奴ア織部助の遠縁  
たる森忠政に拾われ  
.....

家中の者と揉めて  
喧嘩死にした  
らしい.....



槍一筋の男に  
しちやあ  
あつけねエ死に様  
さア.....



あつけなく  
死にたく  
なかったら……

乱世の強者が  
どんどんなに  
ならア……

織部助の言う通り  
うまく徳川と合体  
していく外ねエ  
のか……



知りませなん  
だ……

あたいはちよいと前  
まで 大久保長安様の  
佐渡行きに付き添って  
いたゆえ……



山三郎も浮かばれ  
ませぬ……

あたいが選んだ  
政宗様が 左様な  
弱氣じゃア……



長安様が親しき  
宣教師から こう  
伺うたようです

家康公亡き後  
日の本を束ねるは  
……

奥州王において  
外なし……と



政宗様の娘  
五郎八様は  
松平忠輝様の許嫁  
.....



二代三代と  
伊達の世が続くに  
不安なし.....とも



踊り子が天下に  
口出すんじや  
ねエ

それから先ア  
俺の生業よオ







同年7月 京  
高台寺（京都市東山区）



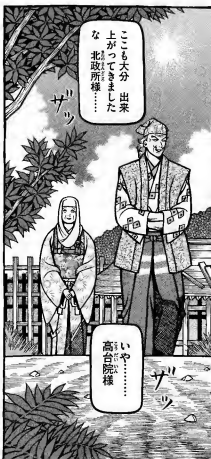
家康様が何かと  
気を遣うてくれる  
もんだで……

伏見城から門や  
観月台を移築して  
下さったんだわ……



古織殿にも  
感謝しとるがね

あんたの造った  
茶屋を山里丸から  
二つも移してくれて



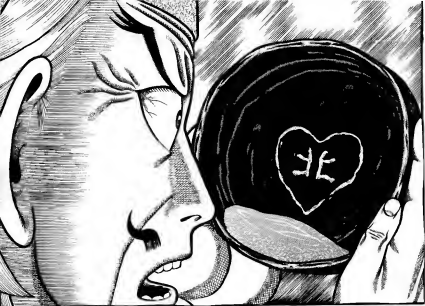
ここも大分 出来  
上がってました  
な 北政所様……

いや……  
高台院様











さればこの  
茶碗は……

おね様への  
恋文代わり!!



おね様には  
わからずとも

家康様は承知  
のはず……



迂闊<sup>うかつ</sup>だった  
……

まさか  
……

まさか還暦を  
過ぎてなお  
恋慕を抱き続けて  
いようとは……!!







な……何を  
お怒りで？

もうよい

お前には  
有楽斎殿の次男坊を  
更生してもらおう



だらしな  
い……

荒馬を制して  
こそ 真の武人  
であろうが！



さ……  
左様な……

私には  
山城守としての  
務めが……!!



夕餉の支度が  
できました

記帳が終わり  
次第 三の間へ



は!!!

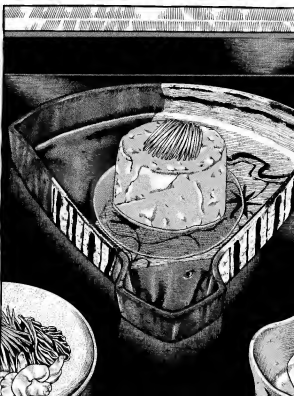
齢の近き者同士  
話も早かろう

皮袴組の左門に  
会い 狼藉なぞ  
止めさせて来い！





おお  
うまそう  
な……





  
*Raw manga*  
*manga-zone.org*





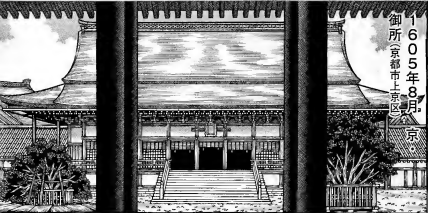
どちらかを惚れ  
させるだけでも  
難しそうだし……



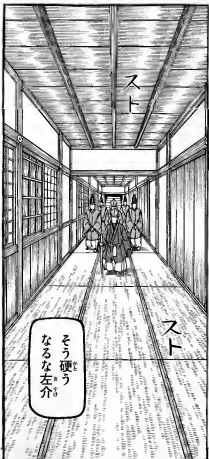


1605年8月  
御所(京都市上京区)

京



帝と直に<sup>まへ</sup>対面するが  
初めてでは<sup>はじめて</sup>致し方  
なからうが……

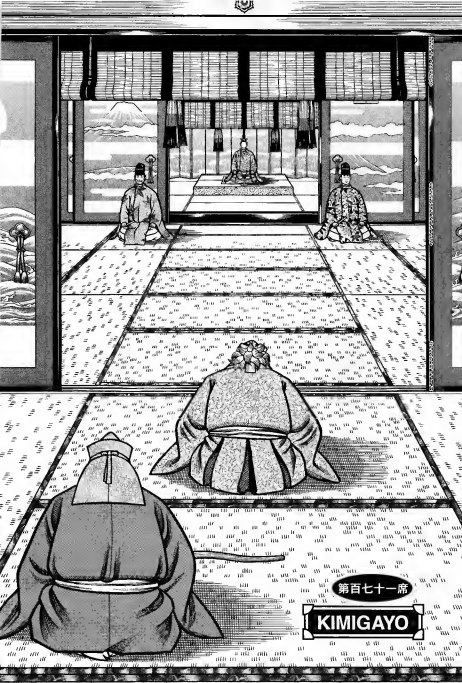


スト

スト

そう硬<sup>かた</sup>う  
なるな左介<sup>さけ</sup>





第一百七十一席

KIMIGAYO





幼き頃に幽斎殿より習いましたが……

は……恥ずかしながら研鑽を怠っておる次第……



和歌や連歌はよう嗜みますか？



今後は気兼ねなく禁中へいらして下さい

そして……



それならば関白に就任した近衛信尹に習うと良いでしょう

幽斎殿は高齢ゆえ身体に障りましようから





ほんに……

古田はんが  
気さくな方で  
よろしかったです

元は信長はんの  
直臣と聞いて  
てつきりきつい方  
やと……



近衛様の父君  
前久様は 信長公と  
親しかったようで  
……

隠居した父が  
言うには……

何しはるか  
わからん方で  
怖々つき合うとっ  
た……と



いや……  
こちら近衛様には  
感謝の限りにて

戦になろうかという  
徳川方と島津殿を  
うまく和睦せしめ  
……

人質にされし  
小堀作介まで助け  
なさるとは……

木  
木  
木

私は帝に怒られ  
薩摩に配流された  
事がありますゆえ





私たちは徳川はんに  
ようしてもろとるん  
やが……

言うてきはる事が  
どうも堅苦しうて  
のう……

秀吉はんの存命中  
を知っておるだけ  
に……



さりとて猪熊様や  
烏丸様がはめを外し  
過ぎれば……

徳川様とて  
お達しをきつう  
せざるを得ぬか  
……と



旅芸人や遊女を  
禁中まで入れとる事は  
大目に見たってほしい  
……

私ら公家衆は  
……

異郷より来る者程  
靈力が強いと  
思ってますのや  
……





あまりに俗世から  
離れては 生き物  
として弱なります  
.....

せやから  
古田はん.....

幕府には  
よろしうに



彼らと交われば  
魂に活力を与えて  
くれる.....と

貴殿の教奇を  
取り込むも  
同じ事.....



四角い徳川はんを  
まあ~~~~るく  
したって下さい



そのためなら  
古田はんのケツを  
なんぼでも持ちます  
え



私らも抑える所は  
抑えますゆえ  
.....



同年9月 洛外・鴨川沿道

かたじけのう  
ござる  
重近殿……

私は幼き頃より  
嫌というほど  
武芸を仕込まれ  
……

今でも鏢競り合  
いなど見たくも  
ないの……

殿っ

あれが皮袴組の  
住み処にて！

頼りにされるは  
嬉しいけど……

この古田重嗣  
一人で向かうは  
不安ゆえ……

数奇事で誘って  
ほしかったわ  
……







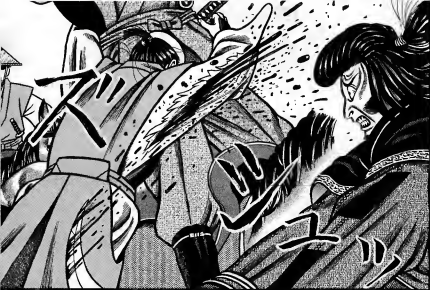


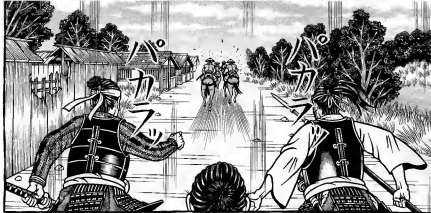






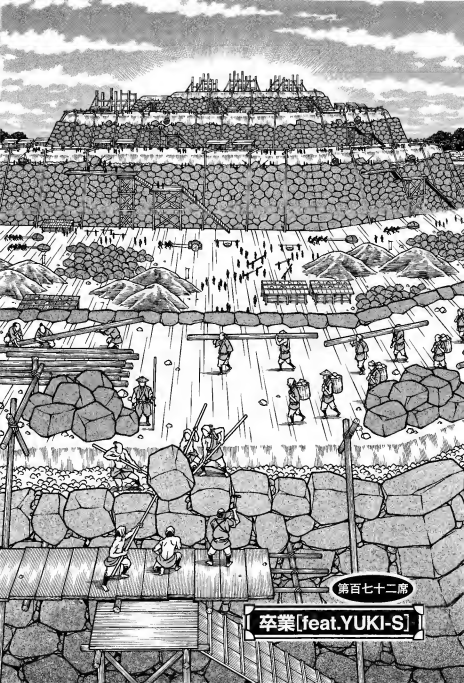






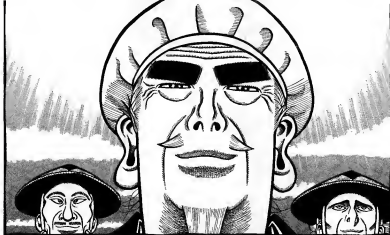
1605年11月  
江戸・日比谷入江  
(東京都千代田区)



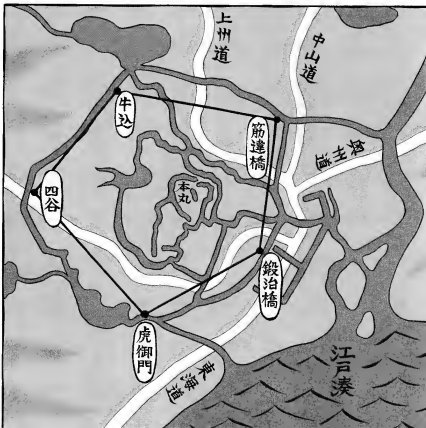


第一百七十二席

卒業[feat.YUKI-S]











そして堀を広く  
大きくする事で  
.....

城の中心まで  
大砲の弾を届か  
なくさせマス



これら五角形の角に  
あらかじめ砲台を  
造れば.....

敵は交差するよう  
撃ちたくとも標的に  
なり 大砲を置けず  
攻めづろうなりマス



理はわかった  
が.....

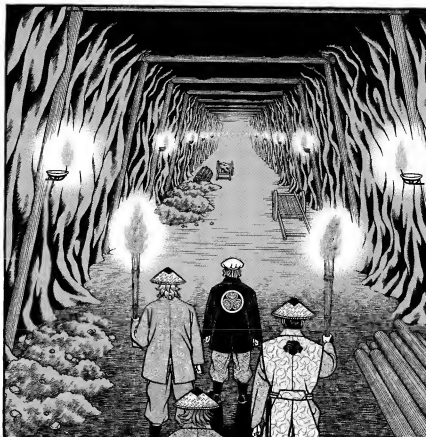
如何か  
天海僧正  
陰陽道から見て



裏鬼門に当たる地には  
目黒不動尊があります  
が.....

鬼門には無きゆえ  
何ぞ建立せねば  
なりませんまい

本丸





本丸から五角形の  
外郭へ四方八方に  
.....

これで大砲や弾薬  
を速やかに砲台へ  
送れるござマス

話には聞いて  
おったが.....

これ程大掛かり  
な地下道とは  
.....



万が一の時には 本丸  
からの逃げ道になつて  
くれるかと.....

ここまで徹底した  
城は 前代未聞  
.....

完成すれば  
天下一の名城として  
君臨するは必至にて  
.....

天守の意匠は  
.....

小堀作介  
だったな？



その方が忠誠心は  
関ヶ原にて よう  
わかった……

大坂城西の丸では  
激昂してすまなん  
だ……



はっ！



今度は遠慮は  
要らぬ

思う存分  
質実潔白に  
仕上げてくれ

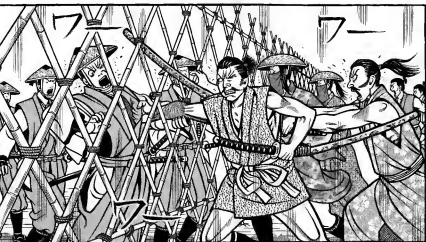
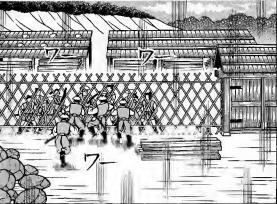
上方の者には  
眩しう映る程  
にな



亡き父の分  
まで……


しかと！





江戸にもかぶき者がおるのか……？





武家の中間や小者が  
幕府に不満をぶつけ  
ておるようで……

大鳥居一兵衛なる者  
の許には三千もの輩  
が集まるとか……



まだまだ武人が  
多過ぎる……

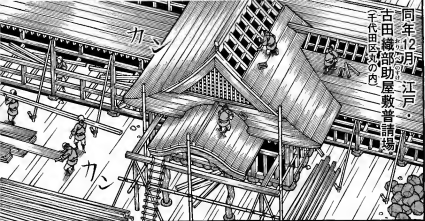
関ヶ原にて片付け  
られなかったのが  
心残りよ……



いずれ一掃  
せねばならぬ

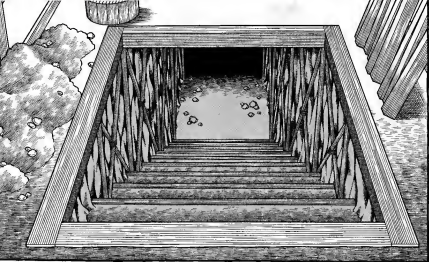
私の目が  
黒いうちに

同年12月 江戸・  
古田織部助屋敷普請場  
千代田区丸の内

















あの時も石田や  
上杉を怒らせたが  
.....

今度も秀頼様を  
信奉する諸将が  
黙っておらぬぞ!!



刻が経てば白う  
なるも承知よ  
.....

大坂城西の丸の  
失敗を再現  
しようてか!?



これが大御所様  
御所望の姿  
なのです!!

それがしに  
豊徳合体なる  
器用な事は  
できません!!





利休居士より  
教わりし大切な  
事だ!!

人の真似を  
してはいかん  
……と!

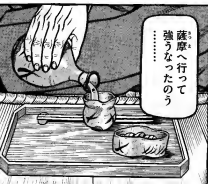
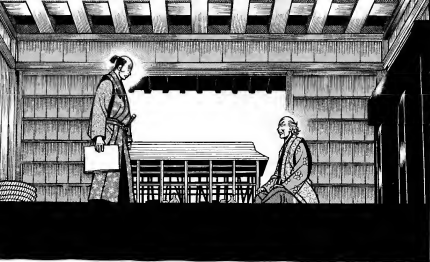


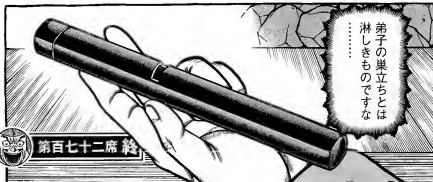
宗匠として  
仰っていたでは  
ありませぬか……



鉛瓦の  
しらす  
麗しき白城こそ  
……

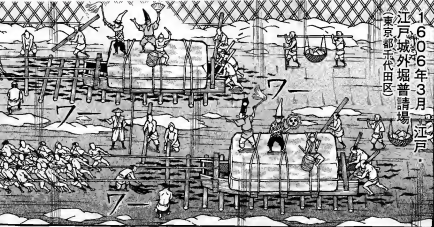
小堀作介の  
責で成し得る  
最上の城にて!!








1606年3月 江戸  
江戸城外堀普請場  
(東京都千代田区)





「けしからん」と  
憤慨し「大御所様  
に伝えん」とまで

第四百七十三席

SEA SIDE BOUND (Go bound)



な……

何て事をして  
くれ申した  
……



貴殿の志の  
高さを伝えんと  
……

大御所様にバレ  
れば 全て終に  
ござる！

なればこそ  
仲良うなつて  
もらいたく  
……



数奇武將の桑山殿  
と私は 犬猿の仲  
……！

私のやる事為す事  
一切が気に入らぬは  
忠興殿も承知のはず  
……！



しかるに我らの  
動きは叛意と  
みなされ……

今の幕府に  
豊臣は目の上の  
瘤……



かくなる  
上は……

か……

みな敵罰に  
処せられますぞ  
……!!



そこで何とか  
……

何とか桑山殿と  
仲良うなり 憤慨  
を鎮めて下され!!



實を取って桑山殿を  
貴殿の茶席へお連れ  
致す!!







同月 江戸・  
古田織部助屋敷  
千代田区丸の内



風呂の灰も  
用意できて  
ござらぬが



数奇屋が完成  
したと聞き

居ても立っても  
おられず 茶を  
喫みに……

桑山殿の感想も  
伺いたく 無理に  
誘うて……







いついかなる時に  
客が参ってもよいよう  
道具の用意を怠るなど  
説いた……

我らが敬う  
利休居士は……



それもできぬ者の  
志など 聞くに  
堪えませぬわ

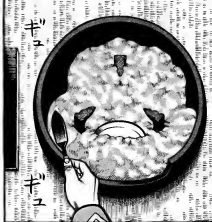


まずいぞ  
古織殿……

何としても  
見事な点前を見せ  
桑山殿に喝采を  
……!!

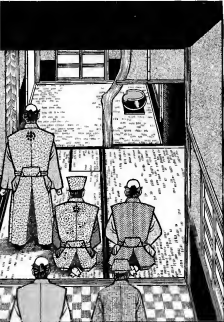


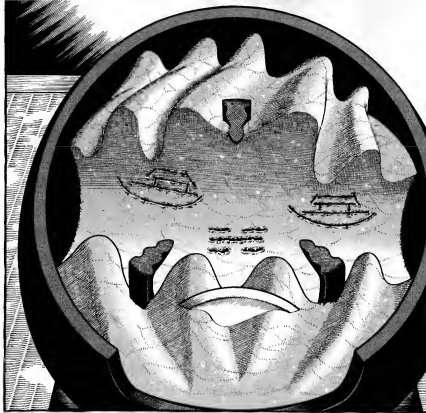
まずい  
……











世反形の仕上げに薄く白い灰





天下一となりて  
も 驕る事なく

それを推し進め  
無茶な程の形を  
創り上げるとは

恥も外聞も捨て  
必死に



ふと思い出し  
申した……

由比ヶ浜の景を  
取り入れた  
利休居士の創意を



織部助殿は覚悟  
創意 手柄に加え  
.....

傾聴に値する  
大志をも抱く  
真の名人となられ  
ましたな







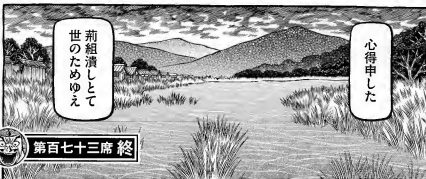




いけすかねエ  
荊組潰しを  
おめエらが助けて  
くれんなら……

義侠に免じて  
おとなしくして  
やらアな

そこまでの  
覚悟が  
あんならな



心得申した

荊組潰しとて  
世のためゆえ

1606年6月 山城国  
西の岡 古田山城守屋敷  
(京都市南区)

まったく  
どこをほつき  
歩いておる  
重嗣は……

ようやく江戸より  
戻り 孫の顔を  
見に来たというに  
……


申し訳ござい  
ませぬ……

七日程留守を頼む  
と申され……

お前の父は  
不屈き者よのう  
千阿子っ

のうっ

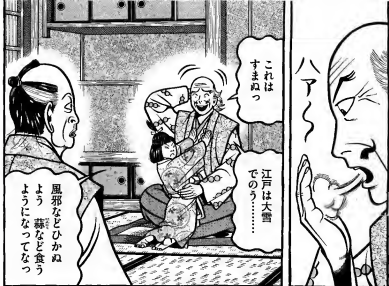
以後 何の音沙汰  
もありませぬで  
……



おじじお口  
くさあい！

第百七十四席

I still love O





その手が  
あったか  
.....!!

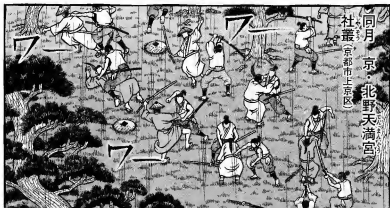


八月に二条城にて  
猿楽興行がある  
.....

そこに大御所様が  
高台院様を招いて  
おるのよ.....



はて.....



同月 京・北野天満宮  
社叢（京都市上京区）









その前に足腰  
立たねエように  
してやるぜエ

今ここでな



公家の猪熊らに  
泣きついてみるや  
……

洛中のかぶき者一切  
が報復に来やがっ  
ても……

皮袴組が一人  
残らず返り討つて  
やらフ……

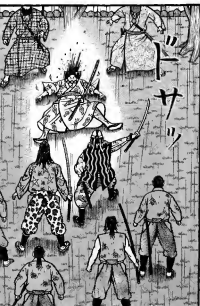


ただし

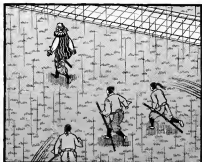


てめエらが俺らの  
傘下に入るってエ  
んなら話は別よオ











約束は果たし  
申した 左門殿



この先  
おとなしうして  
頂く証に……

貴殿の父  
有楽斎殿に  
会いに行つては  
下さらぬか



わかつて  
らアな

だがなア  
……

ケンカで死人が  
出たつて噂が  
広まりやア……

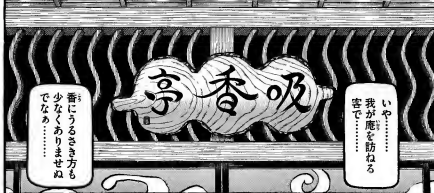


治安にうるせエ  
京所司代の板倉が  
黙つちやいねエ……

おめエも氣イ  
つけな 重嗣









先程からお声に  
元気がなく  
……



兄の木下家定の  
具合が……

いかんもんだで  
よお……



先はもう長うないと  
木下家の相続を頼ま  
れとるがね……

二万五千石の  
領地をどうする  
かも……



家定殿が嫡男  
勝俊殿は確か  
……

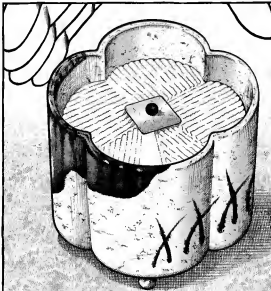
先の戦での敵前  
逃亡を責められ  
改易されたはず  
……

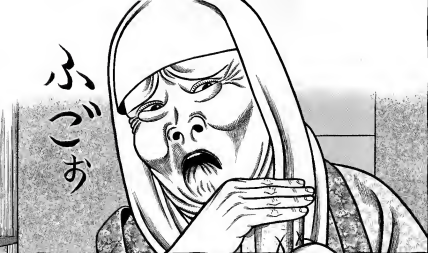


その子に継がせ  
るはちと……

そうは言うても  
継がせたいがね  
……

今は頭を丸めて  
おとなしうしとる  
でよお





禅僧のそれがしが  
藤など使い  
ませぬっ

今一度  
よ〜〜〜聞いて  
みて下されっ



伽羅ガロの香かが  
……

うっすら……



くっさいで  
いかん!

こりやあ蒜  
でしょう!?

風邪の時に  
我慢して食べた  
事があるがね!

志野宗信が選びし  
名香六十一種より  
さらに厳選し……

ほろ苦くも甘うなる  
よう 練り合わせ  
ました……

※室町時代の武人で足利義政の同朋衆

これぞ我が生涯の  
成果たる極乙香と  
自負します

酸いも甘いも噛み  
分けた 高台院様  
の御方でのうては  
……

中々わかって  
もらえぬとは  
存じますが

何かだんだん  
……

良い香のよう  
に……





あの香は蒜と  
伽羅を合わせた  
だけの物……

そしてその薫りを  
清廉を旨とする  
家康様は嫌うで  
しょう……



どうかお赦し  
をおね様  
……



豊徳合体実現  
のためには  
……

二十年の恋とて  
冷めさせねば  
ならぬのです



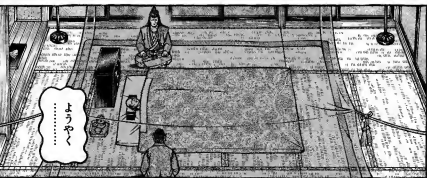
事が成った暁には  
真の極乙香を進呈  
しますゆえ……

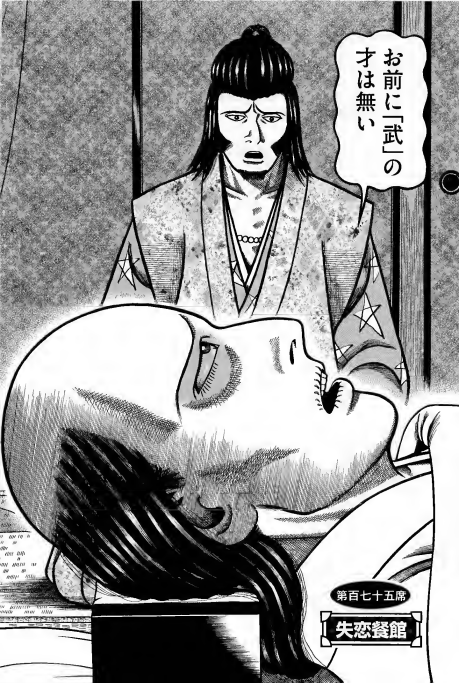


第一百七十四席 終



1606年7月 美濃国  
野村 織田長孝屋敷  
(岐阜県大野町)





お前に「武」の  
才は無い

第百七十五席

失恋餐館



「うつげ」と呼ばれし頃の  
信長公を真似て 徒党を  
組もうと……

幼き頃より  
ケンカしてきた私が  
一番ようわかる  
……



その事を肝に  
銘じ……

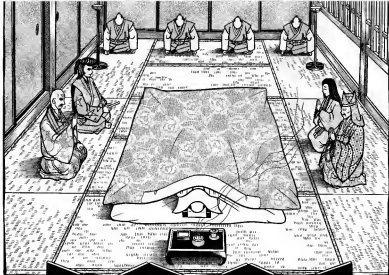
しかと父  
有楽斎の跡を  
継げ……



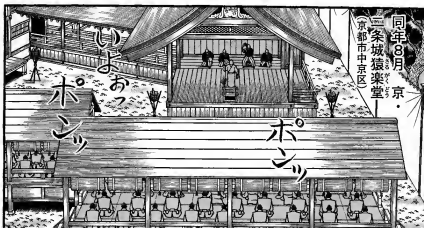
武才なくとも  
……

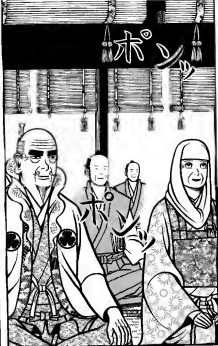
お前には  
数奇がある  
……

私以上の  
……な











大御所様は  
おやさしき方  
で……



あの僧は女に  
怪訝さよりも  
……

慕情を抱いた  
に違いない  
……



一つ私の想いを  
受け容れては  
下さりませぬか  
……？

惚れた男に  
先立たれた女子を  
慕う気がありなら  
……







い  
け  
ま  
せ  
ぬ  
っ

太閤様の妻  
だった御人と  
懇ろになるなど

兄の嫡男  
木下勝俊の事  
だで……



頼むわあ  
大御所様……



何とか  
……

何とか兄の跡を  
継がせたいんだ  
わ……

私は勝俊を妻の子  
の如く可愛がって  
きたもんだで……



先の戦<sup>いくさ</sup>での不始末  
は許<sup>ゆる</sup>したって  
ちょー……



嫡男<sup>ちやくなん</sup>なのに継げん  
ではどえりやあ  
不憫<sup>ふびん</sup>だがね……

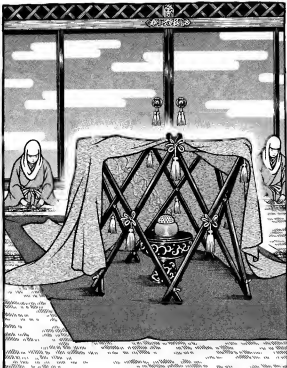


次の演目<sup>えんめく</sup>まで  
刻<sup>とき</sup>があります  
……

控<sup>ひか</sup>えの間にて  
……

ちと  
休み<sup>やすみ</sup>しましょう









あなたは私を恨み  
もはや逢う事も  
のうなる……

それは  
……

それだけは  
……  
!!



されど……

されど その  
事を告がば  
……



早う  
お座りを

もう始まる  
がね



あまりの良き芳香  
に蕩けそうだ  
………!!!

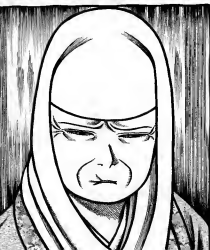
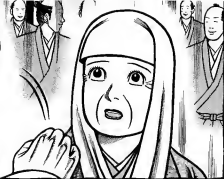
私が強精の妙薬  
として好んで  
止まぬ………

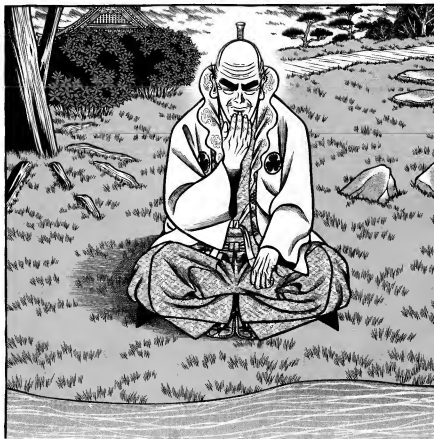
蒜の香を染めて  
参られるとは  
………!!!















第十六服終

「へうげもの」第16版は「モーニング」12年34号、36号、39号、41号、43号、45号、47号、49号、53号、13年2・3合併号、6号に掲載された作品を収録しました。編集部では、この作品に対する皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。また、「モーニングKC」にまとめてほしい作品がありましたら、編集部までお知らせください。

〈あて先〉

〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21

講談社 モーニング編集部「モーニングKC」係

なお、お送りいただいたお手紙・おハガキは、ご記入いただいた個人情報を含めて著者にお渡しすることがありますので、あらかじめご了承のうえ、お送りください。

★この作品はフィクションです。実在の人物、団体名等とは関係ありません。

モーニングKC-2179

## へうげもの 16

2013年2月22日 第1刷発行（定価はカバーに表示してあります。）

著者	やま だ よし ひろ 山田芳裕 ©Yoshihiro Yamada 2013
発行者	清水保雅
発行所	株式会社 講談社 〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 電話 編集部 東京 (03) 3945-9155 販売部 東京 (03) 5395-3608 業務部 東京 (03) 5395-3603
印刷所	大日本印刷株式会社
本文製版所	豊国印刷株式会社
製本所	誠和製本株式会社
装丁	シマダメディアキ(Local Support Department)

講談社

●本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

●落丁本・乱丁本は購入書店名をご明記のうえ、本社業務部までにお送りください。送料・小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせはモーニング編集部までお願いいたします。

# 豊臣秀頼 HIDEYORI TOYOTOMI

1593(文禄二)年、豊臣秀吉&茶々の次男として大坂城で誕生。生まれながらの桃山プリンス。大伯父は織田信長、おさな妻・千姫の両親は徳川秀忠&江、すなわち義理の祖父は徳川家康。「へうげ」を解する籠の鳥。好きな色、エバグリーン。



# 大久保 長安 NAGAYASU OHKUBO

1545(天文十四)年、猿楽師の子として生まれる。甲斐の武田信玄に仕え、土木や鉱山開発に従事。武田家滅亡後は家康の下へ、銅の錬金術師として江戸幕府を支える。大橋巨泉とは他人の空似。ウツシシ。好きな色、ゴールド・イン・エロー。



ああ……

己自身で手に  
した報酬で  
ようやく……

ようやく  
「織部好み」の  
緑釉器を我が物に  
……!!

数奇の平和を守るため、  
豊徳合体へ織部大爆走!

へうげモノ 17 期

'13年夏発売予定!!

生年未詳。京の扇屋・俵屋の息子。本阿弥光悦の引き立てで「平家納経」補修を手がけるなど画才を発揮しつつある。織部モードに激しく反応「へうげ」を信奉し、荒ぶるかぶき者たちへの反感を隠さない。好きな色、インクブラック。

俵屋宗達

# 織田左門 SAMON ODA

1582(天正十)年生まれ。織田有楽斎長益の次男。幼い頃から父とその朋友・織部の数奇に影響を受け、まっすぐな道ではさみしい若者となる。かぶき者グループのヘッドとして京の街を夜露死苦爆走。好きな色、クリムゾン。



猪熊らと繋がる  
旨味を、俺らが  
頂くってことさア

くそ高エタバコや  
南蛮衣まで  
こっちに貰くって  
んならア……

ここは手打ちに  
してやらアな

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

# Hyounge Mono

16.   
KODANSHA

© 2007  
Feel's So

## WINDY LADY

Rough Boys  
1976

卒業／高橋由紀子

June 1978  
Pete Townshend

河津大入子 / GENJI 1988

I LOVE YOU. OK / 矢沢永吉 1975

失戀ストリィ

1

清水健太郎 1976

U/Petume 2009

1980

6661 湖空影攝室 / 2

[モーニング公式サイト] <http://morningmanga.com> @へう  
 [へうけもの公式Facebookページ] @heyomono  
 [へうけもの公式Twitter] @heyomono  
 [へうけもの公式ブログ] 2

公式サイト] <http://morningmanga.co.jp/>  
 [へうげもの公式Facebookページ] @へうげもの  
 [へうげもの公式Twitter] @hyougemono1  
 [へうげもの公式ブログ] <http://hyougemono1.blog.fc2.com/>

2179

ト] <http://morningmanga.com>  
の公式Facebookページ] @へうげもの  
[へうげもの公式Twitter] @hyougemono1  
[へうげもの公式ブログ] <http://hyougemono1.blogspot.jp/>

2179

HYOUGEMONO SINCE 2005  
MORNING KC





16 

山田芳裕

YOSHIHIRO YAMADA

tham muốn.

cách là kéo dài mạng sống.